

新たな鶏の改良増殖目標の骨子案

I まえがき

II 改良増殖目標

1 改良・増殖をめぐる現状と課題

- 国内育種資源の多様性・選択肢の確保、外国種鶏の安定調達
- 種鶏孵卵場の広域化に伴う 2024 問題

2 改良目標

(1) 能力に関する改良目標

- 能力に関する現状及び目標の数値は、養鶏農家において飼養されている外国種鶏の能力水準に基づくもの。
- これを品質や特色を重視する国産種鶏に直ちに適用するには難しい面もあるが、国産種鶏の改良を図っていく上での指針となるもの。

① 卵用鶏

ア 飼料要求率

イ 生産能力（産卵率、卵重量、日産卵量、50%産卵日齢）

- 飼料要求率を維持・向上、産卵率は改善、卵重量及び日産卵量については地域性を踏まえ、幅をもたせる。

表 1：卵用鶏の能力に関する目標数値（全国平均）

	飼料 要求率	鶏卵の生産能力			
		産卵率	卵重量	日産卵量	50% 産卵日齢
現在	1.94	% 88.4	g 61.7	g 54.6	日 147
今回目標 (令和○年度)					
前回目標 (令和 12 年度)	1.9	89	61~65	54~58	143

ウ その他の能力に関する改良事項

- コスト低減や社会情勢等に対応するため、長い期間、高い産卵性を持つ改良を推進。

(ア) 卵質

(イ) 育成率・生存率

② 肉用鶏（ブロイラー）

ア 飼料要求率

イ 生産能力（出荷日齢）

ウ 育成率

エ その他の能力に関する改良事項

表 2：肉用鶏の能力に関する目標数値（全国平均）

	飼料要求率	出荷日齢	育成率	(参考) 体重
現在	1.66	46.5 日	94.7 %	3,104 g
今回目標 (令和○年度)				
前回目標 (令和12年度)	1.6	45	96	2,970

③ 国産鶏種（地鶏等）

- 特色ある品質を保持しつつ、特に、消費者に対する合理的な価格水準での鶏肉等の供給が図られるよう生産コストの削減に努める。
- 地鶏等の安定的な雛の生産・供給を図りながら、和食の食材や地域の特色ある産品としての需要の裾野を拡大

(2) 能力向上に資する取組

① 改良手法

- ア 家畜改良センター、都道府県及び民間の関係機関の連携

- 家畜改良センター及び都道府県は種鶏のもととなる素材鶏の系統造成
- 都道府県及び民間の関係機関はこれらの組み合わせ利用の成績等を参考とした種鶏の改良と実用鶏の安定供給
- 生産資材等のコストが上昇する中、育種改良及び系統造成の重要性は益々高まっており、関係機関が役割分担を行いつつ、相互に補完し合う体制の強化を図る。

(ア) 国産鶏種の系統造成・安定調達に当たって

- 遺伝的多様性を保持した上で、遺伝的能力評価に基づく素材鶏・種鶏の選抜及び利用を図る
- 増体性や繁殖性（産卵率、受精率等）の向上に努め、実用レベルの供給が可能な育種規模を確保

(イ) 始原生殖細胞（PGCs）の保存等技術習得及び普及体制について、関係者間で相互に補完できるような連携体制の構築

(ウ) 鶏改良推進中央協議会等の場の活用

- 異血導入等のマッチングや科学的なデータに基づく肉質等の改良を進めるための連携を推進するとともに、消費者への訴求に関する情報交換の実施

注：鶏改良推進中央協議会

家畜改良センター、都道府県、民間団体等が消費者ニーズも踏まえ、効率的な改良を推進するための課題解決に向けた各機関の役割分担や業務の連携調整等を行う会議。

イ 遺伝子（DNA）情報の利用

鶏の育種改良等への利用を促進するため、有用な遺伝子情報の収集を進める。

② 飼養・衛生管理

鶏の遺伝的能力を十分に発揮させ生産性を向上させるため、

ア 育成率向上や産卵の持続性の維持等を目的とした飼料設計の改善を行うこと

イ 家畜疾病の発生予防及びまん延防止のため、生産者における飼養衛生管理基準の遵守の徹底について指導するとともに、生産農場における衛生管理を向上させる農場HACCPの普及を推進すること

- ウ 生産者における生産管理の徹底や効率性の向上による経営基盤の強化のため、生産者の家畜衛生、作業安全、アニマルウェルフェア等の取組をGAP等の普及により推進すること
- エ アニマルウェルフェアについては、国の指針（令和5年7月畜産局長通知）を普及すること
- オ ICT技術の導入、飼養管理方法の改善を推進すること

③ その他

- 商品の差別化を図るためには、鶏卵については、ハウユニットに加え、卵の濃厚さに関係する卵黄比率、鶏肉については、歯ごたえ、アミノ酸組成、脂肪酸組成等といった食味に関する形質をPR
- 地域の飼料資源等を活用し、差別化を図る鶏卵・鶏肉生産の取組も推進。また、たんぱく源として利用可能な肉骨粉の利用を検討
- 抗菌性物質の利用低減に向けた適切な飼養衛生管理等を推進
- 持続可能性（SDGs）を考慮した鶏卵・鶏肉の生産JAS等の認証制度も活用した消費者へのPR
- 国産鶏の独自性に配慮し、喧噪性（けんそうせい）等を低減させる改良手法の探索
- 食文化やご当地食材とのコラボレーションの事例を収集の上、紹介することを検討

3 増殖目標

鶏卵・鶏肉の需要動向に即した安定供給を行うことを旨として、飼養羽数の目標を次のとおり設定する。

卵用鶏：〇〇百万羽（現在188百万羽）

肉用鶏：〇〇百万羽（現在148百万羽）

また、多様化する消費者のニーズに応え、国は、特色ある鶏の増殖に向けた種鶏の羽数が十分に確保されるよう努めるものとする。

(参考) 鶏をめぐる情勢

1 鶏をめぐる情勢

2 これまでの改良の取組と成果

(1) 改良事業の概要

(2) 成果